



草津学区の健幸かるて（令和6年度版）

【令和6年12月作成】

草津市人とくらしのサポートセンター 地区担当保健師

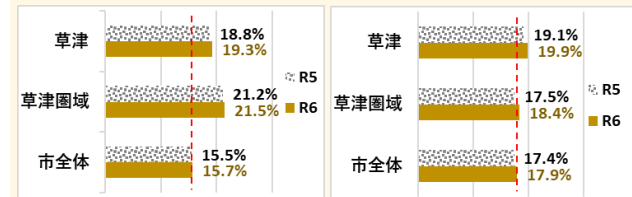
1.人口構成(R6.4.30) ※市と比較して区分割合が高い項目に赤字着色

合計(年少/生産/高齢)							
年齢区分	0～14歳		15～64歳		65歳以上		計(人数)
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
志津	2,485	17.5%	9,265	65.1%	2,486	17.5%	14,236
志津南	1,333	20.0%	3,840	57.5%	1,502	22.5%	6,675
草津	1,589	13.3%	7,583	63.7%	2,738	23.0%	11,910
大路	1,513	12.7%	8,050	67.4%	2,388	20.0%	11,951
矢倉	1,177	12.2%	6,174	64.1%	2,288	23.7%	9,639
洗川	1,317	13.7%	6,539	67.8%	1,784	18.5%	9,640
老上西	1,461	16.8%	5,361	61.8%	1,851	21.3%	8,673
老上	2,475	19.7%	7,998	63.8%	2,071	16.5%	12,544
玉川	1,305	10.6%	8,644	70.2%	2,360	19.2%	12,309
南笠東	747	9.7%	5,104	66.5%	1,821	23.7%	7,672
山田	937	12.1%	4,439	57.1%	2,396	30.8%	7,772
笠縫	1,570	14.0%	6,296	56.0%	3,371	30.0%	11,237
笠縫東	1,624	14.9%	6,449	59.3%	2,806	25.8%	10,879
常盤	648	13.3%	2,651	54.4%	1,571	32.3%	4,870
草津市	20,181	14.4%	88,393	63.1%	31,433	22.5%	140,007

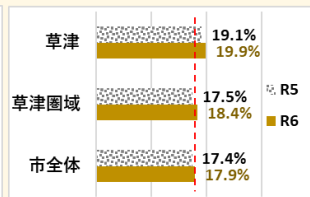
【参考：65歳以上人口割合】草津 23.5% / 草津市 22.4% (R5.4.30)

4.高齢者の状況 ※③は、40～64歳の第2号被保険者も含む

①単身高齢者の割合(R6.4)



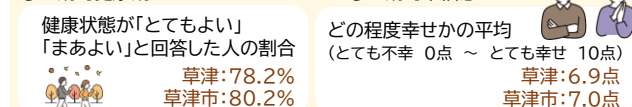
②介護認定率(R6.4)



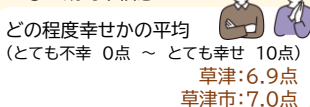
③介護が必要となった原因で最も多い疾患(R1～R2新規申請者)

【要支援認定となった人】	【要介護認定となった人】
膝関節症	アルツハイマー型認知症 消化器がん

④主観的健康観



⑤主観的幸福感

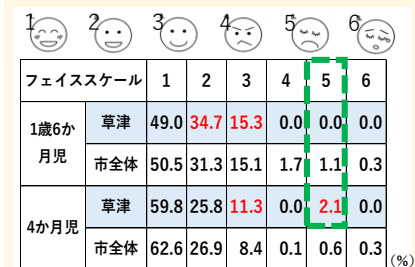


6.地域資源(地区組織活動・社会資源等)

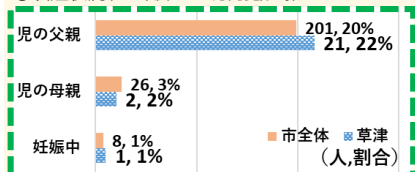
医療機関 医科:7か所・歯科:6か所	スーパー:1か所・コンビニ:3か所	地域サロン:13か所	健康推進員 9人
薬局:3か所・ドラッグストア:3か所	子育てサークル・拠点施設:2か所	町内会 27個	

2.妊娠・出産・子育て(乳幼児健診問診結果)

①育児に対する今の気持ちに近いフェイススケールの割合(R5年度)



②喫煙状況(R5年度:4か月児健診時)



③「育てにくさを感じているか」の割合(R5年度)

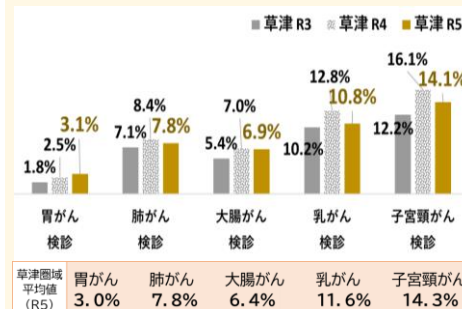


5.地域の声

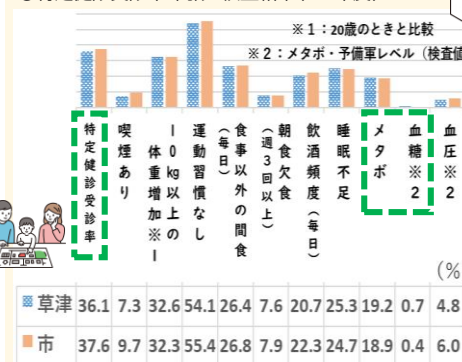
「足が悪くなると、日中はデイサービスにいくな人が増え、集まりの人数が減ってきている。」
 「昔からご近所で助け合ってきた。新しく引っ越してきた家の周りには交流はあまりないみたい。」
 「マンションに住んでいるが、隣に誰が住んでいるか知らないし、交流もない。」
 「民生委員や町内会などの担い手が不足し、声をかけても見つからない地域もある。」

3.からだの健康・生活習慣

①市が実施しているがん検診の受診率推移(R3～5年度)



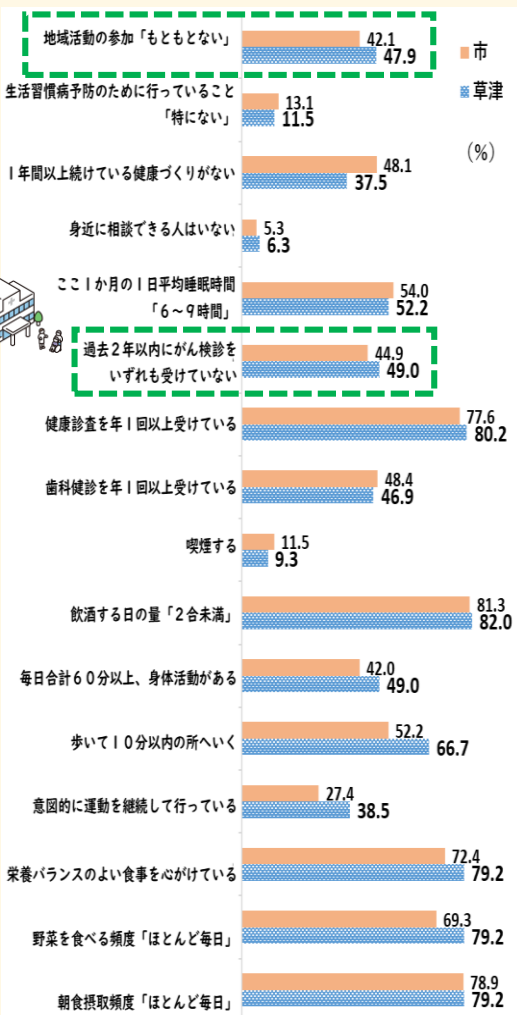
②特定健診受診率・問診・検査結果(R5年度)



～地域の取組・活動の様子～



③生活習慣 健康に関するアンケート調査結果:対象18～74歳(R4年度)



<地域の目指す1年後の姿(目標)> 草津学区の住民は、自身の生活習慣を振り返る機会をもち、主体的に健康づくりに取り組むことができる！

<地域の特性と健康課題>

- 高齢化率、単身高齢者、介護認定率の割合が市平均より上回っています。
- 生活習慣では、健康づくりの継続性や身体活動の取組、食生活への意識等が市平均よりも高い地域です。しかし、4か月児健診時では児の父親の喫煙率が市平均より高く、妊娠中の喫煙率も市と同割合となっています。
- 昔ながらの街並みもあり、地域の活動が積極的に行われているエリアもありますが、転入者も多い学区となっています。特にマンションでは、隣人同士が顔を知らないという実態もあり、地域活動の縮小、地域活動の担い手不足という課題が生じています。

<健康課題の解決に向けた取組方針・活動状況>

- 地域住民が集まる場では、若いうちから生活習慣病予防やがんの定期受診の重要性を啓発しました。広く多くの方への情報提供や健康教育が行えるよう、地域と連携して取り組む必要があります。
- 地域の関係者と集まり、各団体が行う地域づくりの取組を共有し、顔が見える関係づくりを行うことにより、その繋がりが相互の取組見学等を行うことができました。
- 子育てサロンでは、子どもを持つ親の思いを聞き取り、民生委員児童委員と連携し、引き続き実態の把握が必要とあります。